

◇◇ 近畿病院図書室協議会 ◇◇

第24回 総会 報告

平成10年3月26日、兵庫県立尼崎病院講堂において平成9年度の近畿病院図書室協議会第24回総会を開催した。当日は出席会員34機関、委任状の提出45会員で開催され、牧野尚彦会長の開会挨拶の後、議長に重富久代氏、副議長に黒佐孝太郎氏、書記に大橋真紀子氏を選出し議案審議に入った。

議案8題はそれぞれ満場一致で可決され、次年度の会長と事務局長には、それぞれ役員会で選出された牧野尚彦兵庫県立尼崎病院長と小田中徹也国立京都病院司書が再選された。また、講師に塩見昇先生（大阪教育大学教授）を招き、「図書館員教育の今日的課題」と題して総会記念講演を開いた。

議案日程

- 議案Ⅰ. 平成9年度活動報告
- 議案Ⅱ. 平成9年度会計・監査報告
- 議案Ⅲ. 平成10年度活動方針
- 議案Ⅳ. 平成10年度事業計画
- 議案Ⅴ. 会則改正
- 議案Ⅵ. 平成10年度予算
- 議案Ⅶ. 役員改選
- 議案Ⅷ. 次年度会長・事務局長承認

議案Ⅰ. 平成9年度活動報告

はじめに

近畿病院図書室協議会は1974年の設立当初から、会員の雑誌所蔵データを数度にわたり目録化し、相互貸借に必携のツールとしてきた。その中で、総合目録は1987年の改訂以降、計画・準備段階に入ったものの発行には至らず、現行所在目録をもって相互貸借に充ててきた。そこで、1996年春に改めて改訂計画をたてて準備作業を開始し、1997年は1年間、会員の所蔵データの収集、編集、校正の各作業を精力的にすすめた。発行は年度末の3月であるが、1993年から特に急増した会員の所蔵状況を反映する初めての総合目録として、完成が期待されていたものである。

研修活動では、8月9-10日の両日、初めて合宿形式で第83回研修会を京都で開催した。病院図書室における業務と情報の両側面でのコンピュータ化の現況紹介や、ワークショップにおいて今日的な問題点の解決策を探った。また、12月10日大阪での第84回研修会では専門性の高いテーマを選び、それぞれ発行元か

ら講師を呼んだ。すなわち、「JCR統計指標」の見方やインパクトファクターでは学術雑誌の評価法を、また「医学中央雑誌」の一步進んだ使い方や問題点を探った。その他、春秋の勉強会、奈良先端科学技術大学院大学におけるセミナーへの多数の会員参加も促した。

会誌『病院図書室』(季刊)17巻1号では特集「病院図書室と電子情報」で主にインターネットの利用を紹介し、2号では「紛らわしい相互貸借：書誌事項の確認」で、基本的な日常業務を扱った。また、同3号では第83回研修会での話題を報告集にまとめ、病院図書室における今日的なコンピューティング動向を扱った。なお、当協議会では昨年度10月にホームページを開設したが、今年度9月に協議会独自のドメインをアメリカで取得しURLを”http://www.hosplib.org”に移転した。

対外交流では、1996年からすすめられている病院図書室研究会との共同事業が目される。5月に東京で11月には京都で運営会議を開き、ふたつのテーマ「インターネット・プロジェクト」と「病院図書館員認定資格制度」を共同で調査研究することになった。現在、それぞれの作業班を設け、病院図書館員向けの共同運営ホームページの開設準備と、認定資格制度に関する予備調査を実施し、共同作業をすすめている。

さて、事業活動も以上のように順調に消化し、会員数も今年度7機関の入会があり現在117会員となった。しかし、協議会の事業内容や会員の個々の状況では必ずしも問題点がないわけではない。それは、これまで会員委託センターの形で会員サービスにあたってきた事業や、特に相互貸借に顕在している会員間の格差や図書館員の位置付けなどがある。これらについてその見直しや改善に向け、取り組むべき今後の大きな課題と思われる。

I-1-1. 研修部

[第6回勉強会]

日時：1997年6月4日(水) 13:30~16:30
場所：国立大阪病院

会費：500円

プログラム：

1. 病院図書室の役割と近畿病院図書室協議会の活動について
講師：山室真知子(京都南病院)
 2. 相互貸借の基本的ルール
講師：林伴子
(社会保険神戸中央病院)
 3. 雑誌所蔵調査について
講師：徳田雅子
(大阪府立母子保健診療合医療センター)
- 参加者：21名(うち研修部4名)

[第83回研修会]

日時：1997年8月9日(土)~10日(日)
場所：コミュニティ嵯峨野
(京都府勤労者研修センター)

会費：会員 15,000円 非会員 17,000円
プログラム：

第一日目「パソコンと病院図書室」

・蔵書管理

蔵書管理ソフト「情報館」を用いて

伊佐治裕子(公立陶生病院)

無人図書館での貸出管理

徳田雅子

(大阪府立母子保健総合医療センター)

表計算ソフト「エクセル」を用いた蔵書管理

山室真知子(京都南病院)

・相互貸借

パソコンを利用した相互貸借

前田元也(西淀病院)

・検索

オンラインによる国内文献検索および所蔵調査

足立郁子(小牧市民病院)

MEDLINE CD-ROMのあれこれ

大西幸雄(株:サンメディア)

インターネットの活用/当協議会ホームページと医療・医学関連のホームページの紹介

小田中徹也(国立京都病院)

・グループディスカッション
第二日目「病院図書室をめぐるいくつかの話題」

- ・ワークショップ
利用者指導
首藤佳子（星ヶ丘厚生年金病院）
ニューメディアと図書館員
前田元也（西淀病院）
図書室業務はじめの第一歩
山室真知子（京都南病院）
木下久美子（高山赤十字病院）
- ・グループ発表とディスカッション
参加者：会員 33名（宿泊者 23名）
非会員 7名（宿泊者 6名）

[施設見学会]

近畿地区医学図書館協議会 第3回シンポジウム
日時：1997年10月24日（金）
場所：奈良先端科学技術大学院大学 電子図書館
参加者：21名

[東海地区勉強会]

日時：1997年11月8日（土）13:00～16:30
場所：小牧市民病院
会費：500円
プログラム：
1. FREE MEDLINEの活用
・インターネットによる無料MEDLINE検索の紹介

小田中徹也（国立京都病院）

2. 雑誌の管理を見直す
参加者：会員15名 非会員7名

[第84回研修会]

日時：1997年12月10日（水）10:00～16:30
場所：紀伊國屋セミナー室
会費：1,000円
プログラム：
・「基礎講座」近病図協医学雑誌総合目録の利用法—雑誌書誌データについて—

山室真知子（京都南病院）

- ・学術雑誌の引用動向—JCRの統計指標の見方／インパクトファクターを中心に
棚橋佳子（インSTITUTE・サイエンティフィックインフォメーション日本事務所）
 - ・「医学中央雑誌をさわる」構成と利用法
CD-ROMをつかった検索実習
三沢一成（医学中央雑誌刊行会）
- 参加者：34名

[第85回研修会]

日時：1998年3月26日（木）12:30～14:30
場所：兵庫県立尼崎病院
会費：500円
プログラム [事例・研究報告会]
1. 1年間の引き継ぎ期間を振り返って
名古屋第一赤十字病院（前田夏子）
2. 図書業務のコンピュータ化—相互貸借を中心に—
姫路赤十字病院（花北まゆみ）
3. 図書室PRのための利用案内
松阪中央総合病院（森川治美）
4. 当院図書室の現状—日本医療機能評価機構認定をとおして—
武田総合病院（大嶋みどり）
5. 雑誌の訂正記事について
大阪府立母子保健総合医療センター
（徳田雅子）

今年度は3回の研修会、2回の勉強会と施設見学会を行った。

今年度のテーマは、担当者の経験年数を越えた幅広い支持を受け、会員間の親睦をもてる研修会を企画することとした。そこで今年度第1回目にあたる第83回研修会を1泊2日で開催した。1日目は「パソコンと病院図書室」とし業務を行うのに不可欠になってきたコンピュータの様々な使用例の紹介、2日目は「病院図書室をめぐるいくつかの話題」をテーマにした。研修会では初めてのワークショップを行った。初めての企画ではあったが、二日間で40名の参加があり成功であった

と考える。

第84回研修会は新近病図協医学雑誌総合目録の利用法、JCRの統計指標の見方、医学中央雑誌の利用法などを取り上げた。実務に則していたため幅広く参加してもらえる内容であったと考える。

第83回研修会を2日間としたため、今年度の定例研修会は2回となったが、今年度のテーマにそった研修会だったといえる。しかし、コンピュータを使用した研修会が重なり、インターネットを使用するケースも考えられたため、研修会会場を探すのに苦慮しなければならなくなった。会場探しは、今後の課題となる。

勉強会は、例年の新人向けと東海地区中心の勉強会を行った。新人対象の勉強会は、今年も相互貸借の基本的ルールを盛り込んだものになった。担当者の交代が多いため相互協力活動の基本についての研修はさけて通れないものではあるが、毎年の勉強会で繰り返さなくてはならないのか、といった疑問が研修部の中でももたれた。東海地区勉強会は、地域を限定し会員外にも細かく案内を出したため参加者からは喜ばれた。ただし、東海地区だけでなく他の地域の研修活動についても今後の課題として残った。

今年の施設見学会は、近畿地区医学図書館協議会の第3回シンポジウムをあてたためか例年より多い参加者があった。

年間を通して研修部事業の評価としては、はじめて企画した一泊二日の研修会の成功をあげたい。ただ企画から案内発送迄あまり時間を取ることができなかつたので、今度行う時にはもう少し前から開催日を決めプログラムをきめ細かく練り会員間の親睦を計りたい。

今年度は研修部員として、大阪府立母子保健総合医療センターの徳田雅子氏と社会保険神戸中央病院の林伴子氏の協力を得た。

次年度はまた、新たな研修部体制で臨む事となるが、資格認定の話題があげられてきた今、担当者としての基礎知識の取得につながる研修会を考え資質向上を計りたい。

I-1-2. 会誌編集部

1. 活動報告

今年度は会誌「病院図書室」17巻1号～4号を発行した。発行経費は、1,221,555円で予算1,400,000円に対して、178,445円の黒字となった。また、発送部数は207部（会員117、購読会員71、交換6、寄贈13）である。

主な内容、発行日、発行部数は下記の通りである。

- 1号：（発行H9. 6. 12, 発行部数300部）
 特集「病院図書室と電子情報」／臨床に役立つ雑誌－小児科－他
- 2号：（発行H9. 10. 23, 発行部数300部）
 特集「紛らわしい相互貸借－書誌事項の確認」／第23回総会報告 他
- 3号：（発行H10. 2. 6, 発行部数300部）
 特集「近畿病院図書室協議会第83回研修会特集」 他
- 4号：（発行H10. 3. 31, 発行部数300部）
 枚方市立図書館の病院サービス／公共図書館の病院サービス／学会教育認定施設の図書室規定／学術雑誌の引用動向－JCRの統計の見方／Free Medlineへの招待／臨床に役立つ雑誌－臨床病理－／会員名簿 他

また、広告収入は下記の通りである。

サンメディア（裏表紙）	17(3)'97～18(2)'98	80,000円
ナカバヤシ	(B 5) 17(2)'97～18(1)'98	40,000円
ベルブック	(B 5) 17(1)'97～17(4)'97	40,000円
医学中央雑誌刊行会	(B 5) 17(1)'97～17(4)'97	40,000円
厚生社	(B 6) 17(2)'97～18(1)'98	20,000円

合計 220,000円

2. 総括

今年度を総括すると次のようになる。前進面として、1) 編集方針に基づき企画発行することができた。2) 購読会員を拡大するため、パンフレットを作成し送付した。対象は東海地区と中四国の病院約 200機関。3) 17巻1号から英文コンテンツを掲載した。

今後の課題として、1) 大幅な発行の遅れの解消。2) 編集体制の確立。が挙げられる。

3. 編集方針

97年度編集方針「病院図書室に根ざした図書館員に身近な記事作りをめざす。具体的には、①図書室サービスに必要なニューメディア媒体の紹介や具体的事例を取り上げること ②図書館員の役割や専門性を追求していく」に基づき企画発行することができた。

具体的に1号では特集記事として「病院図書室と電子情報」を取り上げ、今後これらの媒体を取り入れようとしている図書室担当者に参加となるような記事作りを努めた。また、3号では第83回研修会の事例を報告することでインターネットやオンライン検索、CD-ROMなどの紹介と同時に実践例などを掲載した。

また、図書館員の専門性や役割についても、2号で相互貸借時における書誌の利用方法や図書館員の役割について深め、3号では研修会での各ワークショップの報告を掲載し、利用者指導・ニューメディアと図書館員・図書室業務はじめの第一歩など、それぞれの視点から図書館員の果たすべき役割について深められることができた。

そこで、98年度の編集方針は、これまでの蓄積の上にたち、97年度と同様、「病院図書室に根ざした図書館員に身近な記事作りをめざす。具体的には、①図書室サービスに必要なニューメディア媒体の紹介や具体的事例を取り上げること ②図書館員の役割や、専門性を追求していく」とし、より充実した誌面作りをめざし、編集方針に基づき具体的に企画・編集していくこととする。

4. 購読会員の拡大の取り組み

今回は、東海地区と中四国地区の約200機関の病院を対象に、パンフレットを作成し、購読の呼びかけをおこなった。この取り組みを含めて、今年度は7部の拡大となった。このことは、単に購読の呼びかけにとどまるものではなく、病院図書室の存在を、広く知らせる取り組みであったといえる。98年度も引き続き取り組んでいきたい。

5. 英文コンテンツの掲載

17巻'97年から英文の目次を掲載した。今後は、インターネット上でも紹介し「病院図書室」を内外に広く知らせる役割を果たしていきたい。

6. 編集体制と発行の遅れの解消について

97年度は発行が最大4ヶ月も遅れたことをはじめ、発行の遅れが相次ぎ、会員や購読会員には多大な迷惑をかけてしまった。この原因の主たる要因は編集体制にある。編集部員個々の図書室業務の増大と編集部員に突然の人事移動もあり、定期発行ができない状況下に追い込まれた。原稿のフロッピーやE-mail(テキストファイル)でのやり取りや、可能な限り部員の負担を少なくするため、役割を分担するなど努力してきたが、定期発行することができなかった。

98年度は、レイアウト業務の外注化をはかることで、作業の時間短縮と、部員の負担を軽減し、定期発行体制を確立していきたい。

7. 18巻以降の発行について

18巻'98年の発行は、編集方針に基づき、誌面の充実をめざしていきたい。

具体的には、

- ①特集記事や各論文で編集方針を深める。
- ②ニュース記事や会員間の情報交換のページを充実する。

ex. 新規受け入れ雑誌の案内、廃棄図書案内、質問コーナー など

- ③関連雑誌(図書館、医療関係)の記事紹介。

98年度から「情報の科学と技術」「Bulletin of the Medical Library Association」の2タイトルを協議会で定期購読し、編集の企画の参考にすると同時に、参考となる記事に関しては誌面でも紹介していきたい。また、紹介した論文や掲載されている論文は複写サービス（通常の相互貸借と同様に扱う）をおこなう。〔複写依頼は西淀病院図書室まで〕

I-1-3. 統計調査部

【重複雑誌目録の発行】

- a. 調査対象：1996年1-12月発行の重複雑誌
- b. 作業経過：1997.7.14 調査用紙発送（111施設）
1997.8.12 回答締切
1997.10.20 目録発送（116施設）
- c. 参加施設：32施設（参加率29%）
- d. タイトル数：232誌（国内78種外国154種）

【図書室統計調査報告書】

- a. 調査対象期間：平成8年度（1996年4月～1997年3月）
- b. 調査項目：図書室管理機能、サービス機能、統計
- c. 作業経過：1997.7.14 調査用紙発送（111施設）
1997.8.20 回答締切日
1997.10.20 報告書の発送（116施設）
- d. 回答施設：84施設（回収率76%）
- e. 文献の相互貸借
一協議会全体での件数一

一申込一

協議会会員	14,251件	(33%77施設)
会員以外の病院	2,471件	(6%)
大学図書館	16,132件	(38%)
文献手配業者	9,482件	(22件)
その他・不明	651件	(5%)
合計	42,987件	

一受付一

協議会会員	14,026件	(84%)
上記以外の病院	2,007件	(12%)
その他・不明	598件	(4%)

合計 16,631件

【経費】

印刷費：8,400円 郵送費：31,660円

I-1-4. 目録編集部

「医学雑誌総合目録 和文・国内欧文・華韓編1984年」および「医学雑誌総合目録 欧文編 第2版 1987年版」を統合して、第1次「医学雑誌総合目録 改訂版」の発行が企画されたのは1990年であった。しかしこの頃よりの医学・医学情報テクノロジーの急激な変貌と、文献相互貸借業務の著しい増加による繁忙等により病院図書室の業務量が重くのしかかるようになった。次々と創刊される雑誌の受け入れとバックナンバーの廃棄などにより会員機関の所蔵データも大きく変化していく中で、日常業務の傍らの編集委員のみでの改訂版の作成は、編集作業の段階まで進みながら暗礁に乗り上げた結果とならざるを得なかった。

その中で1996年度事業としての「現行雑誌所在1996年版」の発行では、従来の目録編集委員会を目録編集部として再出発させ、目録作成の一部を外注することにより早期の発行を実現した。それに引き続いて、この時のデータを基に、1996年11月より改めて第2次「医学雑誌総合目録 改訂版」編集作業の準備を開始した。記載方法は原則として「学術雑誌総合目録 欧文編」および「同・和文編」に準じ、目録編集部にて各幹事の意向、意見を参考に「総合目録作成要領」を作成し、第81回研修会（1997年2月17日）において、そのあらましを会員に説明した。

所蔵データベースの提出は原則としてパソコンまたはワープロによるフロッピーディスクとし、「現行雑誌所在目録1996年版」に掲

載されているすべての雑誌名・ISSN・書誌データが入力されているフロッピーディスクを各会員が使用しているパソコンまたはワープロの機種に合わせて1997年3月8日に配布した。会員はそこから所蔵している雑誌名に続けて所蔵データを入力する方法をとり、フロッピーディスクと共に詳細な「所蔵データ入力の手引き」を配布した。フロッピーディスクでの提出が不可能とする会員には、「現行雑誌所在目録1996年版」に提出されたその会員機関の所在雑誌名を記入した用紙を送付して、それに所蔵データと記載されていない雑誌名の補足を依頼した。また、VML (Virtual Medical Library) システムの参加会員には二重の負担を避けて医療研修推進財団へ提出したデータを利用した。

この総合目録には1997年の所蔵を含めるものとし、データの提出期限は1997年4月30日とした。また、会員機関ではスペースの都合上バックナンバーの廃棄も多いので、次の目録改訂までの約3年間の廃棄をも考慮した上での所蔵データを提出してもらった。

当初の計画ではデータ校正は各機関において各機関のデータを校正し、全体の統一を編集部で行うこととし、発行を1997年7月とした。しかし雑誌の誌名変更が予想外に多く、それに伴う所蔵データの記載方法の不統一、通巻号表示から巻数表示への変更の見逃し等によるデータ修正と、書誌データの不完を訂正、補正する作業に非常に多くの時間と労力を要した。この大がかりな校正・修正作業は、1997年8月より1998年1月末までの主として日曜、祝日、年末休日に幹事、会員有志の協力を得て三校を重ねて完了した。当初の発行予定の1997年7月をはるかに超えてしまったが、ほぼ完璧に「学術雑誌総合目録」に即した書誌データをもつ雑誌総合目録が作成できたと思う。今回の編集作業にはコンピュータ、CD-ROM、FAX、等のメディアに負うこと大であった。

この目録の完成によって会員機関への文献依頼に大いに役立つことになるが、依頼を受

ける会員にとっては負担増となることが免れない。各会員においては良識をもってこの目録を活用し、相互協力が円滑に行われることを望みたい。

なお、協議会の会員委託サービス・センターである「総合目録調査センター」のうち、これまで京都南病院図書館が担当していた和書の所蔵館調査については、平成9年度から大阪府立母子保健総合医療センター図書室に移転した。

I-2-1. 幹事会

昨年度同様、今年度も幹事会を4回開催し会の運営にあたった。以下、主議題のうち各事業の報告事項については省略した。

回、日程、会場、主議題

- (1) 4月17日、淀川キリスト教病院、幹事役割分担、事業企画
- (2) 7月17日、国立京都病院、委託センター、パンフレット
- (3) 10月02日、淀川キリスト教病院、総合目録の編集
- (4) 1月29日、星ヶ丘厚生年金病院、年度末の総括と準備

I-2-2. 役員会

平成10年2月24日、兵庫県立尼崎病院において平成9年度の役員会を開催した。牧野尚彦会長(兵庫県立尼崎病院院長)のもと今年度の総括および各事業活動の報告と来年度の活動方針、事業計画、予算の各案を審議した。この中で、会員の地域的な広がりや協議会活動をどのように整合していくか、また図書室担当者の病院間格差をどのように是正していくかは、今後の大きな課題としてとりあげられた。

なお、会則にしたがい来年度の会長、事務局長について審議した結果、平成10年度の会長には牧野尚彦兵庫県立尼崎病院院長が、事務局長には小田中徹也国立京都病院図書室司

書がそれぞれ再選され、総会に諮ることにした。

I-2-3. 会員の状況

会員数：116機関(平成10年2月現在)

(近畿外；35機関、病院外；8機関)

異動：入会；市立堺病院(大阪)、東大阪市立中央病院(大阪)、西尾市民病院(愛知)、長野赤十字病院(長野)、石切生喜病院(大阪)、広島赤十字原爆病院(広島)、尼崎中央病院(兵庫)* *1998年4月より
退会；なし

I-2-4. 対外交流

近畿地区医学図書館協議会の例会では、第69回例会(97/07/02 大阪市立大学医学部医療研修センター)へは、事務局長の小田中徹也と会員の井上弘美が出席した。第70回例会(97/11/28 神戸大学附属図書館医学部分館)には予定していた幹事が事故のため出席できなかった。昨年に引き続き、当地区協議会は第3回シンポジウム(97/10/24 奈良先端科学技術大学院大学)を開催した。当協議会からもその実行委員として研修担当幹事の田中文子が加わり、当日は会員からも21名の参加があり、両会の協力事業として定着したと考えられる。

日本医学図書館協会の第68回総会(97/05/22-23 旭川グランドホテル)へは出席できなかったが第4回医学図書館員基礎研修会(97/08/06-07 奈良県立医科大学)には会員2名が参加した。また、今年度の日本病院会第20回全国図書室研究会(97/10/16-17 新潟)の後援名義の使用についても例年どおり協力し、また会員の山室真知子は講演をおこなった。

対外交流のうち病院図書室研究会との共同事業は、「はじめに」でも述べたように、現在、二つの大きなテーマを軸に作業を進めている。それは、

(1)インターネットの病院図書室への普及啓蒙活動(インターネット・プロジェクト)、(2)病院図書館員資格認定制度の調査研究、である。

なお、当協議会の担当者は(1)については大橋真紀子が、(2)については首藤佳子あたり、全体を小田中徹也がまとめている。また、両会の担当者を中心に、第1回(97/05/10 聖路加国際病院)と第2回(97/11/28 国立京都病院)の運営会議を開き、事業の内容や作業の進め方を協議した。

I-2-5. 共同事業

病院図書室研究会との共同事業において、2回の運営会議を開いた。その経過概要は、以下のとおりである。

第1回運営会議(1997/05/10 聖路加国際病院)
議題：インターネットと病院図書館員認定制度の共同調査・研究

出席者：近畿病院図書室協議会/小田中徹也(国立京都)、首藤佳子(星ヶ丘厚生年金)、大橋真紀子(社保中京) 病院図書室研究会/長谷川湧子(関東通信)、奥出麻里(川鉄千葉)、及川はるみ(聖路加)、山口文子(神奈川こども)、須磨倫子(厚生中央)、和田美津保(埼玉協同)、村松京子(東京衛生学園)

協議事項：2つの課題を共同調査・研究することにし内容と方法を協議した。その結果、長谷川湧子と小田中徹也の両名を総括責任者として、以下の事業をすすめていくことにした。

●インターネット・プロジェクト(担当：奥出麻里、大橋真紀子)

病院図書室におけるインターネットの普及と利用拡大を目的に、両会が協力して研究、啓蒙活動と会員への技術的な支援を行う。

●病院図書館員認定制度(担当：首藤佳子、河合富士美)

病院図書室(館)が、新たな段階に入った今日の医療や情報分野に対応しその役割を効果的に果たすために、そこで働く「司書」の専門性を制度化することができないかを探る。そのため、今年度は病院図書館員の現状や関連職種の実態、海外の状況などを把握し分析する。また、専門性の根拠も検討する。

第2回運営会議(1997/11/29 国立京都病院)
出席者：近畿病院図書室協議会/ 小田中徹也
(国立京都), 首藤佳子(星ヶ丘厚生年金), 前田
元也(西淀), 浜口恵子(高槻赤十字) 病院図書
室研究会/ 長谷川湧子(関東通信), 奥出麻里
(川鉄千葉), 河合富士美(聖路加), 田引淳子
(清水市立)

協議事項：

(1)当会議の名称を「共同事業運営会議」と
する。

(2)インターネット・プロジェクト

病院図書館員のためのインターネット・
ツールとして、電子ジャーナルをはじめ Web
上の役立つサイトをリンク集にまとめホーム
ページ化する。サーバーは近畿病院図書室協
議会のドメイン(<http://www.hosplib.org>)内
に置き、小田中徹也と奥出麻里が中心となり
当ページ作成・運用のためのインターネット
・プロジェクトチームを設ける。5月の次回
運営会議までにテスト版ページを開設する。

(3)病院図書館員認定資格制度検討班

検討班(首藤佳子、河合富士美)から提出さ
れたアンケート案に沿って1998年1月に近畿
病院図書室協議会と病院図書室研究会の会員
へアンケート調査を実施する。集計結果とそ
の分析を今年度内にまとめ、両会の会員へ報
告する。また同時に、認定資格が基本的に目
標とする病院図書館員への専門的教育につ
いて内容とプログラムを検討し、次回運営会
議で報告する。

(4)その他

今年度、共同事業全体の進行・世話役を小
田中徹也が担当したが、来年度は長谷川湧子
に交替し、担当することになった。また、第
3回運営会議を5月、東京で開く予定とした。

1-2-6. 論文・学会発表

[学会発表]

(1) 第14回医学情報サービス研究大会(東
京)(1997.6.22) 医学専門書(一部)

の患者と地域住民への提供

京都南病院 山室真知子

(2) 第20回日本病院会全国図書研究会
(新潟)(1997.10.16) シンポジウム

：患者に対する医学情報の提供を考える
ー司書の立場からー

京都南病院 山室真知子 [シンポ
ジスト](1997.10・30)

(3) 第83回日本図書館大会第8分科会(山
梨)

シンポジウム：入院患者の図書館サー
ビスをどう進めるかー病院図書室の立
場からー

京都南病院 山室真知子 [シンポ
ジスト]

(4) 第25回日本心身医学会近畿地方会(京
都)

インフォームド・コンセントと司書の
役割

京都南病院 山室真知子, 西村和
代

(5) 第34回日本社会保険医学会(小倉)
(1996.10)

看護文献の所在と入手上の問題点

星ヶ丘厚生年金病院 首藤佳子,
杉谷義憲

(6) 平成8年度日本薬学図書館協議会研究
集会(西宮)(1996.10)

デジタル情報時代の病院図書室

星ヶ丘厚生年金病院 首藤佳子

(7) 第35回日本社会保険医学会(大阪)
(1997.10)

図書購入経費と文献入手法について

～最近の動向～

星ヶ丘厚生年金病院 首藤佳子,
杉谷義憲

(8) 第2回大阪公共図書館協会基本研修会
第2回(堺)(1997.12)

公共図書館の「病院サービス」ー病院
の立場からー

星ヶ丘厚生年金病院 首藤佳子

[論文]

(1) 小田中徹也 (国立京都病院)

館種別図書館概況「病院図書室」：近畿病院図書室協議会

図書館年鑑1997年版 93-94 日本図書館協会

- (2) 小田中徹也 (国立京都病院)
人には知られたくないホームページ
医学図書館 44(4)428-430 1997
- (3) 山室真知子 (京都南病院)
病院の地域医療活動と図書サービス
「病院管理フォーラム」
病院 56(7)640-641 1997
- (4) 山室真知子 (京都南病院)
患者と地域住民への医学専門図書の提供
各科テキストブック、辞書・体系類—
ほすびたる・らいぶらりあん 22(3)
113 1997
- (5) 山室真知子 (京都南病院)
特集：患者・一般住民への医学情報サービス
医学専門書の提供から患者心理のアフターケアを考えて
医学図書館 45(1)51-56 1998
- (6) 首藤佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)
デジタル情報時代の病院図書室(1997)
薬学図書館 42(2)164-169 1997
- (7) 首藤佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)
公共図書館の「病院サービス」—病院の立場から— 図書館界 49(6) 300-305 1998

議案Ⅱ. 平成9年度近畿病院図書室協議会会計報告・監査報告

(次頁)

議案Ⅲ. 平成10年度活動方針

今日、情報テクノロジーはパソコンの浸透やインターネットの普及と機能強化に見られるように急激に変貌し、病院図書室にも大きな影響を及ぼしている。当協議会の事業活動においても、研修会や会誌『病院図書室』の

企画の中でさまざまな形で扱い、会員への啓蒙を図ってきた。また、インターネットに関しては独自のドメインを取得し、病院図書室研究会との共同事業でも図書館員のためのホームページ開設を準備している。

一方、当協議会は設立の当初から病院図書室の幅広い相互協力と全般的な向上を目指していたため、広く門戸を開き、さまざまな状況にある病院・医療関連機関を会員として迎えてきた。しかし、図書館としての機能や図書館員の位置付けなどに顕著にみられる会員間の格差は被うことのできない事実でもある。また、協議会事業の中でも会員委託センターは時代的変遷の中でその意義や役割が変わってきているものがあり、さらに、継続事業についても運用を整備する必要があると考える。

そこで、まず協議会の個々の事業内容や運営のあり方さらには入会基準を見直すと同時に、組織・事業・運営・相互協力などを整理して小冊子化し、協議会事業への会員の理解を深めたい。また、情報メディアやテクノロジーについての教育・啓蒙活動は引続き進めていくが、病院図書室の担当者の問題についても、病院図書室研究会と共同ですすめている「病院図書館員認定資格制度」の検討を軸に、司書の専門性を考えていきたい。

なお、日本図書館協会、あるいは日本医学図書館協会をはじめとする医学図書館と交流を深めることや、各地区の関連団体あるいは関連機関とも協力して医学情報の流通発展の寄与に努めることは、従来どおりである。

議案Ⅳ. 平成10年度事業計画

1. 医学文献情報活動

「現行医学雑誌所在目録」1998年版の発行

2. 教育研修活動

定例研修会・勉強会の開催
関連団体の研究研修会への案内と参加奨励

議案Ⅱ 平成9年度近畿病院図書室協議会会計報告

(収入の部)

単位=円

費 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
前年度繰越金	<u>1,602,677</u>	<u>1,602,677</u>	
会 費	<u>2,160,000</u>	<u>2,370,000</u>	H9×115=2,300,000 入会金×7=70,000
事 業 収 入	<u>1,063,000</u>	<u>981,500</u>	
会誌購読会費	(408,000)	(420,000)	H9×65= 390,000 H8×3 = 18,000 H7×2 = 12,000
研 修 会 費	(115,000)	(545,500)	第82・83・84回研修会 第6回勉強会、東海地区 勉強会参加費
雑誌総合目録	(540,000)	(0)	
そ の 他	—	(16,000)	会誌バックナンバー・現行 雑誌所在目録売上
広 告 掲 載 料	<u>180,000</u>	<u>220,000</u>	サンメディア、ナカバヤシ ベルブック、医中誌、厚生 社
そ の 他	—	<u>1,232</u>	銀行利息
合 計	<u>5,005,677</u>	<u>5,175,409</u>	

(支出の部)

単位＝円

費 目	予算額	決算額	差引増△減	摘 要
総 会 費	<u>100,000</u>	<u>92,900</u>	<u>7,100</u>	選挙・議案書費用 特別講演謝礼・交 通費
事 務 費	<u>100,000</u>	<u>61,773</u>	<u>38,227</u>	封筒印刷代, 銀行 振込手数料, 年賀 はがき代, 他
通 信 費	<u>120,000</u>	<u>88,140</u>	<u>31,860</u>	事務局, 各部会連 絡, 会員宛通信費
交 通 費	<u>500,000</u>	<u>364,790</u>	<u>135,210</u>	幹事会, 各部会 その他
事 業 費	<u>3,220,000</u>	<u>2,221,615</u>	<u>998,385</u>	
会誌発行費	(1,400,000)	(1,221,555)	(178,445)	会誌17巻1-4号印 刷費・発送費, 他
研 修 会 費	(350,000)	(817,815)	(Δ467,815)	第82・83・84回研修 会, 第6回勉強会 東海地区勉強会
総 合 目 録	(1,070,000)	(0)	(1,070,000)	
その他の事業	(400,000)	(182,245)	(217,755)	レカルサ-バー代, 他 重複雑誌・年次統 計調査費用
資 料 費	<u>150,000</u>	<u>121,170</u>	<u>28,830</u>	Union Catalog95 学術雑誌総合目録
予 備 費	<u>600,000</u>	<u>0</u>	<u>600,000</u>	
雑 費	<u>215,677</u>	<u>23,771</u>	<u>191,906</u>	慶弔費・接遇費
合 計	<u>5,005,677</u>	<u>2,974,159</u>	<u>2,031,518</u>	

単位＝円

収 入	金 額	支 出	金 額
前年度繰越金	1,602,677	総会費	92,900
会 費	2,370,000	事務費	61,773
事業収入	981,500	通信費	88,140
会誌購読会費	(420,000)	交通費	364,790
研修会費	(545,500)	事業費	2,221,615
雑誌総合目録	(0)	会誌発行費	(1,221,555)
そ の 他	(16,000)	研修会費	(817,815)
広告掲載料	220,000	雑誌総合目録	(0)
そ の 他	1,232	その他の事業	(182,245)
		資料費	121,170
		予備費	0
		雑 費	23,771
		翌年度繰越金	2,201,250
合 計	5,175,409	合 計	5,175,409

上記決算については、会計監査を終了しました。

平成10年3月17日

会計監査 亀井真由美 ㊞
吉田美知子 ㊞

3. 出版広報活動

会誌『病院図書室』の季刊発行
ホームページの継続と内容更新
協議会の事業活動紹介の小冊子発行

4. 年次統計等の調査活動

年次統計と相互貸借の調査、重複雑誌
目録の作成

5. 共同事業

病院図書室研究会とのインターネット
・プロジェクトおよび病院図書館員認
定制度の調査研究の継続実施

議案Ⅴ. 会則改正

現行 (内規)

1 入会の資格

この会に入会を希望するところは、
次の資格を必要とする。

- (1) 図書室があること。(併設も可)
- (2) 司書および図書室業務を担当する
者がいること。(兼任も可)
- (3) 将来、図書室を設置する予定のあ
ること。
- (4) その他の医療関連機関の入会を拒
まない。

改正案 上記の資格項目のうち、(3)を削除
する。

議案Ⅵ. 平成10年度予算

(次頁)

議案Ⅶ. 役員改選

選挙管理委員より平成10年度役員改選が行
われ、幹事8名と会計監査2名が選出された。

新役員は以下の通りである。

◎幹事

須井麻由美 (三菱京都病院)
田中典子 (堺市立堺病院)
首藤佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)
前田元也 (西淀病院)
松本純子 (住友病院)
森川治美 (松阪中央総合病院)
山崎捷子 (淀川キリスト教病院)
山室真知子 (京都南病院)

◎会計監査

花北まゆみ (姫路赤十字病院)
原紀子 (大津赤十字病院)

議案Ⅷ. 会長・事務局長承認

会長には牧野尚彦氏 (兵庫県立尼崎病院院
長)、事務局長に小田中徹也氏 (国立京都病
院司書) がそれぞれ承認された。

以上をもって第24回総会を閉会した。

議案VI 平成10年度予算

(収入の部)

(支出の部)

単位=円

費 目	金 額	費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	2,201,250	総 会 費	100,000	選挙費用, 議案書費用, 特別講演謝礼, 交通費
会 費	2,330,000	事 務 費	100,000	封筒印刷, 年賀状印刷, 他
平成10年度	@20,000×116	通 信 費	120,000	事務局・各部会連絡, 会員通知用
	@10,000× 1	交 通 費	500,000	役員会, 幹事会, 各部会, JMLA近畿地区例会, 他
事業収入	1,402,000	事業費	3,800,000	
会誌購読会費	(468,000)	会誌発行費	(1,500,000)	会誌18巻1-4号印刷, 送料, 執筆料
平成10年度	@ 6,000× 72	研 修 会 費	(350,000)	定例研修会 3回, 事例報告会, 勉強会
平成9年度未納	@ 6,000× 6	総合目録	(1,350,000)	雑誌総合目録改版(国内・外国編)
研 修 会 費	(115,000)	その他の事業	(600,000)	年次統計報告, 重複雑誌目録, 現行雑誌所在目録, インターネット関連費, 協同事業関連費, 雑誌講読料
定例研修会	@1,000×30×3	資 料 費	150,000	
事例報告会	@ 500×35	予 備 費	1,100,000	
勉強会	@ 500×15	雑 費	283,250	慶弔費, 接遇費, 他
雑誌総合目録	(819,000)			
	@ 7,000×117			
そ の 他				
そ の 他				
広告掲載料	220,000			
合 計	6,153,250	合 計	6,153,250	